

第2回 大田区景観審議会 景観賞専門部会 議事要録

- 日 時 : 2015年6月2日(火) 18:00~20:20
- 場 所 : 大田区役所2階 203会議室
- 出席者 : 野原部会長、加藤委員、平澤委員、荘委員、杉田委員、杉山委員、
福井委員、中井景観審議会会長(オブザーバー)
大田区(事務局) 西山課長、中村係長、石塚主任、須貝主任、
井村主任、菅沼主任
(株)計画技術研究所(KGK) 須永、阿部(記)、西原
- 資料 : 資料1-1 大田区景観まちづくり賞キックオフイベント(案)
資料1-2 大田区景観まちづくり賞キックオフイベントチラシ(案)
資料2-1 大田区景観まちづくり賞チラシ(案)
資料2-2 大田区景観まちづくり賞 審査方法(案)
資料3 大田区景観まちづくり賞スケジュール
参考資料1 大田区景観審議会 第1回景観賞専門部会 議事要録

□ 議事内容

1. 議 題

(1) 大田区景観まちづくり賞キックオフイベントについて

- (キックオフシンポジウム、蒲田まちあるき、景観セミナー、景観パネル展)
- ・KGKより「資料1-1大田区景観まちづくり賞キックオフイベント(案)」、「資料1-2大田区景観まちづくり賞キックオフイベントチラシ(案)」を用いて説明。

【キックオフイベントの参加者のターゲット】

- 加藤委員 : 参加者のターゲットで事業者を入れたり入れなかったりしている。区民や団体は分かるが、事業者に何を求めているのか分からない。
- 野原部会長 : 今回のシンポジウムに関しては特段事業者に参加をしてもらうという意図はない。
- 事務局 : 事業者も景観にとっては重要な役割を担うので、区内の建築関係団体には周知していきたい。
- 加藤委員 : 区民、団体、事業者は全てに入れた方が良い。
- 事務局 : そのように修正したい。

【蒲田まちあるきについて】

- 杉田委員 : パネルディスカッションで区民の景観に対する認識について話題提供

- を行うが、まちあるきの中で区民からの質問を受けるといった、区民とのやりとりは想定しているのか。
- KGK : 現段階では想定していない。具体的な内容は検討中だが、まちあるきとまちづくりの状況を説明する講座を実施する予定としている。
景観セミナーでは事前に景観に関する認識について確認する予定だが、同じようなことを実施してもよいかもしれない。改めて相談させてほしい。
- 杉田委員 : 区民からの情報発信がなければ、話題提供ができないので、何らかの形で区民とのやりとりを設けてほしい。
- 野原委員 : 蒲田まちあるきなどのイベントをシンポジウムと同日開催にしているのは、イベント後にシンポジウムに参加してもらうことを想定しているからである。シンポジウムでも蒲田まちあるきに参加した区民の声について話題提供できれば良いという事務局の提案だと思うので、杉田先生に区民の情報が伝わるような形にしてほしい。
- 加藤委員 : 蒲田まちあるきで決まっているのは、蒲田周辺を歩くということだけだと思うが、様々な団体がいくつかの視点で蒲田周辺のまちあるきを実施している。今回は区職員がガイドになるので、大田区が推したい場所を回ることになると思うが、これからできる開発関係の場所を回った方が良いと思う。まちあるきポイントで呑川を挙げていますが、呑川の中で蒲田周辺が一番汚い場所である。呑川の将来像を見せるのか、汚いのでどうしようかという形で見せるのか。行政としてお勧めの場所を選んでほしい。まちあるきを実施する団体が知らない場所を教えるくらいでないと、興味は引けない。日頃知ることができない部分をまちあるきの中で伝えてほしい。
- KGK : 開発関係で言えば、京急蒲田駅西口の再開発がある。その他、区としておすすめのポイントをルートとして設定することになると思う。
- 加藤委員 : 京急蒲田駅西口の再開発は景観に関する検討が行われたのか。
- 事務局 : ペDESTリアンデッキのタイルの色など、景観アドバイザーからの意見を踏まえた整備が行われる予定である。
事業は進行中であり、普段立ち入ることができない場所なので、それらを見られるということになるので、まちあるきの目玉になると思う。
- 野原部会長 : さかさ川通りもまちあるきポイントになるのではないか。
- 事務局 : まちあるきルートに含める方向で検討している。
- 中井会長 : 京急蒲田駅の現場はどういう状況なのか。
- 事務局 : 駅前のデッキ整備に合わせて、1~2 階の商業施設、デッキからつながるマンションが概ね整備できているが、まだ工事は実施中である。京

急蒲田駅2階から詳細に再開発の状況が見ることができる。

- 中井会長 : ヘルメットの数は足りているのか。
- 事務局 : 30名程度のヘルメットを準備する予定である。
- 杉山委員 : 事前にパースを用意するのか。再開発等の将来像が分かったほうが良いと思う。開発となると、区民からすれば、景観より店舗の方が気になってしまうはず。景観に誘導するためにビジュアルも重要である。
- KGK : 再開発のパンフレットを活用できるのではないか。
- 福井委員 : 最新の話も大事だが、なぜこの道ができてきているのかなど、歴史的な経緯も含めて今どうなのかという時間軸も大切にしてほしい。昔の地図を持って歩いても良い。
- KGK : さかさ川通りについては、昔六郷用水だったので、そういった歴史に関する内容も出てくる。
- 事務局 : 昔の地図を収集している。手持ち資料として配布してのまちあるきを検討している。

【景観セミナーについて】

- 野原部会長 : 景観セミナーで事前に課題を出すのは大変ではないか。当日参加して思ったことを書いてもらう程度で良いのではないか。課題があると参加者が少なくなるのではないか。
- KGK : 課題があるかどうかについては事前に告知しない。課題を出すのか、それが難しいようであれば、当日に意見を言っていただくような場をつくるのか、検討の余地はある。
- 杉山委員 : パネルディスカッションで景観セミナーの状況を話題提供するために参加者に事前に課題の提出を求めるが、それと景観アドバイザー3名からの講義を合わせて話題提供するのか。企画内容が不十分ではないか。
- 中井会長 : 事前に課題を提出させるのは相当ハードルが高い。少し対話型で実施した方が良い。例えば、A、B、Cや○、×などを選択してもらうような質問を各講師に1~2問用意してもらってはどうか。スライド見せてどれが良いかを選んでもらうといった方法でも良いのではないか。
- 杉山委員 : 簡単にできるソフトがあり、集計できるものがある。そういうものを使っていいかもしれない。盛り上がる内容にしたほうが良い。後の報告もしやすい。

【景観パネル展について】

- 杉山委員 : 景観パネル展は1階でできないのか。
- 事務局 : 1階の会場は確保できなかった。

杉山委員 : 誘客用に1階で何かPRできないか。

野原部会長 : 3階で景観パネル展を実施していることがわかるものを設置してほしい。

加藤委員 : 前回は意見を出したが、大田ユネスコが写真賞を2~3年続けて実施している。それらと連携しても良いのではないか。景観を気にしている団体もあるので、良い写真があるのであれば、紹介しても良いのではないか。

【キックオフイベントの周知について】

野原部会長 : オーちゃんネットを使えば、主要な関係団体には周知ができるのか。

事務局 : 任意の登録になるので、全ての団体が網羅されているわけではない。興味のない団体にも情報は回ってしまう。

加藤委員 : オーちゃんネットは10以上のカテゴリーで現在約500団体が登録していると思う。景観、観光関係の団体は多くて約50団体ではないか。

野原部会長 : 様々な方法で周知を行ってほしい。

(2) 大田区景観まちづくり賞について

①募集内容(案)について

・事務局・KGKより「資料2-1大田区景観まちづくり賞チラシ(案)」を用いて説明。

【審査材料について】

野原部会長 : 応募用紙のみで選定することになるのか。応募用紙だけでは分からない情報があるときはどうするのか。

KGK : 基本的には応募用紙のみで選定してもらうことになるが、応募内容を事務局で確認し、必要に応じ現地確認したり、必要な情報については押さえたりということは考えている。

【大田区景観まちづくり賞チラシに掲載する写真について】

加藤委員 : チラシの写真はまちづくりのイメージが浮かばない。人がいて、こういうまちであるといった写真にした方が良い。

事務局 : 写真は仮置きなので、検討したい。

【推薦のポイントと審査の視点について】

杉田委員 : 推薦のポイントと審査の視点は連動していなくて良いのか。

KGK : 連動はしているものの、本日提示している審査の視点はたまかなもので議論のたたきになればと重い、用意しているもので、推薦のポイントと全てが合致するものではない。審査のポイントについては各委員

の思いがあると思っている。推薦のポイントについては最低限押さえておきたい情報にしている。

杉田委員 : 審査の視点は推薦のポイントの内容は入っていて、さらに追加しているということか。

KGK : そのとおりである。

杉田委員 : 推薦のポイントと審査の視点对応させるべきではないか。応募者が選択した推薦のポイントを審査しないということになってしまう。

福井委員 : 推薦のポイントはこういうものは評価したいというメッセージなので、ダイレクトに伝えた方が良い。議論の結果によるが、推薦のポイントと審査の視点对応しておいた方が良いと思う。

野原部会長 : 推薦のポイントはもっと加筆した方が良いということか。

福井委員 : 審査の視点を推薦のポイントにすべきではないか。推薦のポイントは文章が難しくなっているので、分かりやすくした方が良い。

KGK : 審査の視点についてしっかり議論していない。安易に公表するのは良くないと思う。

前回は議論したが、推薦のポイントは公表する必要があるか。

野原部会長 : 福井委員の言われたように、こういう点で評価したいというメッセージがないといけないので、公表したほうが良いと思う。

応募者がチェックした推薦のポイントで審査しないこともありうる。

杉山委員 : 応募者の評価と他人からの評価が違うことは気にしなくて良いと思う。応募者が気づかない点を褒めてあげることが重要である。

推薦のポイントは文章が長いので、景観として親しまれている、新しく使って良くなった、新しいまちの姿をつくってくれたといった表現にしてはどうか。内容的にも堅いので、親しみやすい表現とし、審査の視点と連動させ、本日の意見を踏まえ、再度検討した方が良い。

ランドマークという言葉は分かりにくい。まちのシンボルとしてみんなに愛されている、大切にしたいといった表現にするなど、専門性の高い言葉は見直した方が良い。

審査の視点については、かっこ書きはとって、1行で短い文章とすべきではないか。

野原部会長 : 表現が硬く長いので読み取りにくい、必ずしも審査の視点と一致している必要はないが、ある程度連動していないといけないということだと思う。なるべく分かりやすく、また、まとまった形で推薦のポイントをつくることになると思う。

福井委員 : 推薦のポイントの①から③は軟らかい表現にしているが、④はとても難しい内容で他の表現にするのが難しい。

【応募対象について】

- 杉山委員 : 街並み景観部門の応募対象は様々なものが対象になると思うが、応募対象が分かりにくいのではないか。何を推薦したら良いのか考えてしまおう。景観づくり活動部門の応募対象と比較しても、文章が長い。
- 野原部会長 : 街並み景観部門は例示が細かいため、文章が長くなっている。
- 杉山委員 : 街並み景観部門は何でも応募して良いということか。
- KGK : 対象は限定していない。
- 福井委員 : 例えば公園は対象になるのか。公共空間をどう表現するのか。例示が細かすぎて、逆に対象になるかどうか分からなくなってしまうようでは困る。街並み、建物、空間などざっくり書いた方が応募者に伝わるのではないか。
- 杉山委員 : 工作物も理解できるかどうか。橋と塀という例示もギャップがありすぎる。
- 加藤委員 : チラシ上部にあるキャッチコピーと応募対象の内容にギャップがありすぎる。キャッチコピーの方が読みやすい。応募対象の内容は固すぎる。
- 荘委員 : キャッチコピーは街並み景観部門のことしか表現していない。景観づくり活動部門のことは連想できない。
- 野原部会長 : 例示は細かくせず、街並み、建物、空間など表現は工夫して、文章を短くした方が良い。
キャッチコピーも景観づくり活動を連想させる表現にした方が良い。
部会長に一任ということで、いただいたご意見を踏まえ、改善を図りたい。
- 福井委員 : 表現としては街並み、建物、空間、みどりではないか。法令用語が入ってくるのは良くない。
- 野原部会長 : 道路などの土木施設については、空間で捉えられるのではないか。
- 福井委員 : 風景といっても良いかもしれない。
- KGK : 風景だとあの場所から見える富士山といった応募があるかもしれない。
- 中井会長 : 応募用紙の所在地欄に「区内に限る」という表現を加えてはどうか。
眺望景観は除外したほうが良い。
- 野原部会長 : 景観まちづくり賞を制度として育てていくということを考えれば、問題があれば見直せるので、今回は趣旨が伝わるようにやってみて、今後改善していくようにしたい。
できる限り区内でかつ、自分が何らかの形でアクションするもので、遠くの風景を愛でるものではないということが分かるように工夫した

い。

そういう意味で言うと、写真も重要である。応募内容が伝わるような写真にした方が良い。

【応募用紙について】

荘委員 : 応募用紙の街並み景観部門で「街並みの概要」とあるが、「街並み景観の概要」にした方が良いのではないか。

野原部会長 : タイトルなのか、概要なのかが良く分からない。今のままではうまく表現できない人は文章が長くなってしまう。20文字にまとめるのも難しい。書きやすいかどうか。

杉山委員 : 端的に「概要」で良いのではないか。

福井委員 : 固有名詞は書けないのか。

野原部会長 : 受賞者に授与するプレートにどんな内容を記載するのか。おそらくタイトルを記載するのではないか。そうであれば、一言で言ってもらった方が良い。

福井委員 : 現在の様式では物件名の情報が得られないのではないか。

杉山委員 : ほしい情報は「名称」と「概要」ではないか。

KGK : 例えば、田園調布の街並みといったときに、街路樹と沿道の建物の調和が良いということになる。街並みの名称と何が良いのかといった情報を記入してもらう必要がある。

野原部会長 : 何が良いのかといった点はアピールポイントで記載してもらうのか、それとも概要ということで記入してもらった方が良いのか。

KGK : 景観づくり活動団体は活動団体の名称も記入してもらわないといけない。

福井委員 : 活動名称又は活動団体の名称の情報がないと表彰できない。

KGK : 名称というよりはタイトルの方が良いか。

中井会長 : 景観づくり活動部門は活動を表彰するので、プレートは不要ではないか。

野原部会長 : ホームページなどで公表するときには何らかのタイトルが必要になる。実際は受賞者が存在するので、前回は議論があったが、街並み景観部門は、受賞者はいるが、それがプレートに入るのではなくて、街並みや建築物などのタイトルが入ることになると思う。何らかの形でタイトルは記入してもらった方が良い。景観づくり活動部門も団体名か、活動名かのどちらかになるのではないか。

KGK : 景観づくり活動部門は活動人数を記入してもらった方が良いか。審査時に必要ではないか。

野原部会長：街並み景観部門は写真など見た目である程度判断できるが、景観づくり活動部門は具体的な活動内容が分からないと審査できないので、応募を踏まえて、情報を収集するかもしれない。そのため、事務局から問合せを行う可能性があるという注意書きが必要でないか。

【大田区景観まちづくり賞チラシの形態】

野原部会長：A3 折込にして、チラシが応募者の手元に残るようにした方が良い。アピールポイントなども多めに記入できるなどメリットがあると思う。

中井会長：2つの部門を1つの応募用紙にすることに無理があるのではないか。両面で応募要領を作成すれば良いのではないか。景観づくり活動部門は応募者にしっかり記入してもらわないと審査できないと思う。

チラシの裏面は応募要領の詳細を記載した方が良いのではないか。両部門応募しても良いし、1部門の応募だけでも良いと思う。

野原部会長：審査で困らないよう、今の意見を踏まえ修正する。

②審査方法（案）について

・KGKより「資料2-2大田区景観まちづくり賞 審査方法（案）」を用いて説明。

【審査の流れについて】

杉山委員：2次審査は新しい判断材料が出てくるのであれば実施する意味はあるが、1次審査のみである程度絞っても良いのではないか。写真を見て審査するわけなので、会議をしても他の委員の意見を聞いて納得する程度にしかない。2次審査では現地調査を行うのではないか。写真写りが良いだけの場合もある。また、周辺との関係を見る意味でも現地調査は大切である。現地調査をどううまく組み合わせるか。

平澤委員：現地調査を重視した方が良い。その後議論した方が良い。1次審査の各部門で5案件ずつは多いのではないか。3案件ずつくらいにした方が良いのではないか。

福井委員：都市景観大賞でも同じような審査方法を採用している。都市景観大賞では委員が事前に良い案件を選び、それを一同に介した時に集計・提示した上で現地調査対象候補の議論を行う。それが終了したら、担当を割り振り、現地調査を行う。

野原部会長：現地調査を行って受賞候補から除外するということがありうるのか。

KGK：現地調査をどのように扱うか。本日提示した案では、受賞候補の最終確認として現地調査を設定している。最終に絞り混む前の段階で現地調査を設定した方が良いか。

- 福井委員 : 現地調査件数はある程度絞っておかないと大変である。
- 野原部会長 : 目安としては、1部門何件の受賞を想定するのか。
- KGK : 2部門合わせて、5件程度と考えている。1部門2~3件程度である。受賞数を増やすと、応募が徐々に少なくなる中で、景観賞自体が存続できないという懸念がある。
- 野原部会長 : 景観づくり活動部門についても現地調査を行うのか。
- KGK : 現地調査を行った方が良いと思っている。活動を見るのか、活動の成果としての景観を見るのか。
- 事務局 : 活動状況やイベントは時期があるので写真になってしまうかもしれない。
- KGK : ヒアリングはしなくても良いか。現場を見に行くだけということに意味はあるのか。
- 杉山委員 : 景観づくり活動部門については、2~3年の活動の継続性を担保してもらうことが重要である。他の事例で高速道路の高架下にある花壇の事例があったが、暗い場所だったものの、花がきれいに咲いていた。景観づくり活動部門についても現地調査を行い、実感した方が良い。ヒアリングをした経験はこれまでない。団体によってはヒアリングを辞退することもある。
- 福井委員 : 自薦の場合はヒアリングに応じてくれると思うが、今回は他薦があるので、ヒアリングは難しいかもしれない。
- KGK : 現地調査時に団体関係者に立ち会いを求め、現場説明を受けても良いかもしれない。
- 杉山委員 : 書類選考は選定候補を選ぶだけで良いのではないか。それを事前に回収し、集計しておいた方が良い。選考理由までまとめるのは大変ではないか。
選定候補は他委員と重なる場合が多いので、各部門5案件ずつ程度選べば、ランキングができるのではないか。
同じ場所でも東側が良い、西側が良い、また、同じ建物でも違う写真がいくつも応募されるといったことがあるが、ある程度事務局でまとめてもらい、委員の作業量が過度にならないように配慮してほしい。
- 野原部会長 : 書類選考は選定候補だけを選んでもらい、その次の審査会による審査がメインの審査になるのではないか。
現地調査で受賞候補から除外することがありうるのか。ほぼ受賞候補を決めておいて、どうしても問題がある場合は除外するのか。
- 杉山委員 : 最終的に委員間で意見が合わないことがある。無記名で点数を付けたら、○×をつけるなど、最終的に数値で決めた方がよいのではないか。

ある程度決めておいた方が良い。

現地調査は7件程度見られないだろうか。場所によるが、5件回るだけでも大変かもしれない。

福井委員 : 最後はやはり合議で決定するのではないかと。最後に講評を作成するので、多数決で決まったということでは応募者に申し訳ない。議論を尽くして決めた方が良い。1位を決めるわけではない。

杉山委員 : ある程度合理的に冷静に考える場面もあるのではないかと。

福井委員 : 判断に迷う場面では、最終的に部会長が決めるのではないかと。誰かがまとめないと決められない。

委員間で意見が平行線になったとしても、全て良かったというべきで、あまり厳密に考えなくても良いと思う。

野原部会長 : 例えば、現地調査で1箇所除外するということはありうるのか。現地調査を行うと、除外しにくくなる。

杉山委員 : 現地調査を行えば、おかしいものはおかしいと委員共通で認識できる。

福井委員 : むしろ写真だけの審査が不安である。

野原部会長 : 委員のスケジュールもあると思うし、現地調査がどこまでできるか。

福井委員 : 現地調査については担当を決めて行うということも考えられる。

野原部会長 : その場合は現地調査後に会議を開催する必要がある。

中井会長 : 街並み景観部門は現地確認だけなので、委員全員で現地調査に行った方が良い。景観づくり活動部門は、関係団体から説明を受けることを想定すると、相手先のスケジュールもあるので、現地調査は大変だと思う。

野原部会長 : 2部門を同じように審査することに無理があるのではないかと。横浜市の横浜・人・まち・デザイン賞は2部門あり、部門ごとに審査方法、委員も違う。部門ごとに委員を分けることもあると思う。審査のプロセスについても分けて考えた方が良い。

【景観づくり活動部門の対象について】

加藤委員 : ふれあいパーク活動、おおた花街道など行政が活動助成している団体が100以上ある。それらの団体が応募してくると、応募件数が多くなるが、そもそも対象にして良いのか。行政が助成しているという点が気になる。

事務局 : 応募は問題ないと考えている。特筆すべき点があるのであれば、表彰しても良いと思う。

KGK : 行政からの助成がある活動だからといって除外はできないと思う。

野原部会長 : そのような意味でも景観づくり活動部門はある程度情報がないと審査

できない。

【結果発表について】

- 加藤委員 : 表彰や反省会を実施して報告書にまとめるといった作業はないのか。当選者には連絡すると思うが、落選者には落選を連絡の上、資料を返却するのか。資料については他で活用すると書いてあるが、落選してものでも活用して良いのか。
- 杉山委員 : 他の事例では、1回で落とすわけではなく、次回に候補として残すということもある。返却といってもやり方があると思う。
- 事務局 : その場合は募集の段階である程度明示する必要があると思う。
- 福井委員 : こういった表彰制度は徐々に応募が少なくなっていくが、大田区景観まちづくり賞はずっと実施するのか。50件選んで終わりといった形にしないと、毎年継続して実施するのは難しい。
- 事務局 : まずは実施してみて、どれだけの応募があるのかという状況を見たいと思う。
- KGK : これまでの専門部会でも各年ではなく、2年に1回程度ではないかという議論があった。第1回実施後に実施状況を振り返り、見直すべき点は見直し、第2回を行うことになると思う。
- 野原部会長 : 受賞案件を決定した後のスケジュールはどうか。
- KGK : 資料3のスケジュールのとおり、景観審議会でも受賞案件を決定した後、平成28年5月に表彰式を行う。
- 福井委員 : 応募件数や受賞数などの実施概要、審査講評は整理した方が良い。
- KGK : 結果は、平成28年3月頃をホームページ等で公表予定である。
- 福井委員 : 都市景観大賞は落選者に落選理由を伝えている。
- 杉山委員 : 誰がどういう応募をしているか、受賞候補になったかどうかは告知しないので、落選者に落選理由は伝えなくても良いと思う。他事例でも経験がない。
- 福井委員 : 他薦もあるので、推薦者に落選理由を伝える必要はない。
- 加藤委員 : 落選理由を伝えなくても、結果発表だけで大丈夫ということか。
- 野原部会長 : 結果がどこで発表されるかということについては、チラシで明示しておいた方が良い。
- 加藤委員 : 他事例で応募団体を良くするという視点で、次回も応募しようという団体になぜ受賞できなかったかの理由を通知したことがある。
- KGK : それは自薦、他薦の両方がある表彰制度なのか。
- 加藤委員 : 自薦だけである。
- 福井委員 : 自薦の場合は落選理由を伝えた方が良い。ただ今回は他薦もある。

野原部会長：応募者が受賞したかが分かるように情報発信してほしい。

【審査の視点について】

野原部会長：審査の視点については、次回に持ち越したい。

ランドマークという言葉がふさわしいかどうかといった細かい点で気になる部分はあるので、次回改めて提示したい。

3. その他

(1) 建築専門委員の就任（予定）について

- ・事務局より建築専門委員を明治大学理工学研究科建築工学専攻の田中友章教授に依頼することを説明。
- ・各委員に田中教授のプロフィールを送付する。
- ・田中教授の就任に関する景観審議会での取り扱いについて、景観審議会の規定を事務局が確認し、中井会長に報告する。

(2) 今後のスケジュール等について

- ・本日の意見を踏まえ修正した資料を各委員に送付・確認してもらった上で、7月2日（木）開催の第4回景観審議会に提示する。
- ・第3回景観賞専門部会は平成27年8月6日（木）18:00から開催する（会場は後日決定し次第連絡する）。主な議題は審査の流れ、審査の視点とする。